
東京都微生物検査情報

MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

第45巻 第12号
2024年12月号
月 報



東京都健康安全研究センター

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>

ISSN 1883-2636

東京都における蚊媒介感染症ウイルスの検出状況（2016年～2024年11月）

1. はじめに

感染症法・四類感染症の蚊媒介感染症（デング熱、ジカウイルス感染症およびチクングニア熱）の原因ウイルスで、デングウイルス（DENV）およびジカウイルス（ZIKAV）はフラビウイルス科に属し、チクングニアウイルス（CHIKV）はトガウイルス科に属している。いずれの感染症も、多くは軽症の急性熱性疾患もしくは不顕性感染であるが、まれに重症化する場合は知られている。また、妊婦が ZIKAV に感染した場合には先天性ジカウイルス感染症を発症する可能性が指摘されている。

東京都では 2014 年に公園を推定感染地とする大規模な国内発生事例が報告されたが、その後は海外の流行地域への渡航者が現地で感染し帰国の前後で発症する輸入症例が多くを占めている。しかし 3 種類のウイルスとも、国内に多く生息するヒトスジシマカによって媒介されるため、感染者が国内で蚊に吸血された場合には、その蚊を介して国内で感染が広がることが懸念されており、蚊媒介感染症対策は地域における重要な課題の一つである。

本稿では、2016 年 1 月～2024 年 11 月における DENV・ZIKAV および CHIKV の検出状況等について報告する。

2. ウイルス検出状況

蚊媒介感染症ウイルスのうち、例年最も数が多いのは DENV である。2019 年の DENV 検出数は 56 件と最も多かったが、COVID-19 流行により海外渡航が大幅に減少した影響もあり、2020 年 8 件、2021 年検出なし、2022 年 11 件、2023 年 27 件、2024 年（1 月～11 月）36 件であった。COVID-19 流行以後の海外渡航者数の回復や、流行地域での報告数が増加¹⁻³⁾しており、検出数は年々増加している。

DENV は DENV-1/2/3/4 の 4 つの血清型に型別される。検出年ごとに DENV の血清型をみると、2020 年以降、DENV-2 がおよそ半数(36 件/82 件)、DENV-1 および DENV-3 がおよそ 4 分の 1 ずつ(22 件/82 件、19 件/82 件)を占めており、DENV-4 は 2024 年 11 月に 1 例と 4 年ぶりに検出された(図 1)。2016 年からの各型の割合をみると、年によ

って主流となる血清型が異なっており、感染地域の違いや流行している血清型の変化が影響していると考えられる。

ZIKAV は 2016 年に 3 件検出されたのみで、それ以降は検出されていない。

CHIKV は 2016 年、2017 年にそれぞれ 1 件、2019 年に 3 件であり、2024 年（1 月～11 月）は 4 件検出された。

DENV・ZIKAV・CHIKV の合計数でみると、2016 年 47 件、2017 年 36 件、2018 年 24 件、2019 年 59 件、2020 年 8 件、2021 年検出なし、2022 年 11 件、2023 年 27 件、2024 年（1 月～11 月）40 件であり、2024 年は COVID-19 発生以前の水準まで戻っていることが示唆される。

3. DENV 検出事例の渡航先

DENV が検出された患者の渡航先を調査票に記載されている情報から集計したところ、2020 年 1 月から 2024 年 11 月までの期間ではインドネシアが 18 例(25%)で最多となった。次いでインドが 13 例、タイが 10 例、ベトナムおよびフィリピンが 7 例、マレーシアが 4 例であった(図 2)。ただし、複数国渡航していた場合と渡航先が不明な場合を除いている。

世界的には、ブラジルを中心とした南北アメリカ地域で 2023 年からデング熱患者が急増し、過去最多の患者数を記録するとともに、世界全体の 8 割近くを占めた¹⁻³⁾。アジア地域では、2022 年から 2023 年にかけてバングラデシュで 5 倍、タイで 3 倍、2023 年から 2024 年にかけてインドネシアで 2 倍近く患者数が増加しており、世界でも年々増加傾向にあるとされる¹⁻³⁾。

また、2024 年の CHIKV 検出例は、渡航先がインド 2 例、バングラデシュ 1 例、フィリピン 1 例で、2019 年はミャンマー 2 例とインド 1 例であった。世界的にはブラジルが 2024 年の最多数を報告し、次いでインドやパキスタンとなっている⁴⁾。

4. おわりに

COVID-19 流行以後、DENV 検出数が年々増加しており、CHIKV も 2024 年に 5 年ぶりに検出された。また、現在 ZIKAV は世界で大規模な流行は

確認されていないものの、流行国では継続して検出されている⁵⁾。

海外からの帰国者および来訪者がこれらのウイルスを持ち込み、国内流行が発生することは常に懸念されるため、東京都では患者発生動向の調査だけでなく、感染症媒介蚊サーベイランスにより国内流行を早期探知する体制を敷き、引き続き注視している。

<参考文献>

- 1) 国立感染症研究所：IASR, **45**, 136-137, 2024.
- 2) WHO：Dengue - Global situation
<https://www.who.int/emergencies/disease->

[outbreak-news/item/2024-DON518](https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2024-DON518)

- 3) WHO：Global dengue surveillance
https://worldhealthorg.shinyapps.io/dengue_global/
- 4) ECDC：Chikungunya worldwide overview
<https://www.ecdc.europa.eu/en/chikungunya-monthly>
- 5) WHO：Zika epidemiology update
<https://www.who.int/publications/m/item/zika-epidemiology-update-may-2024>

(ウイルス研究科 岡田 若葉)

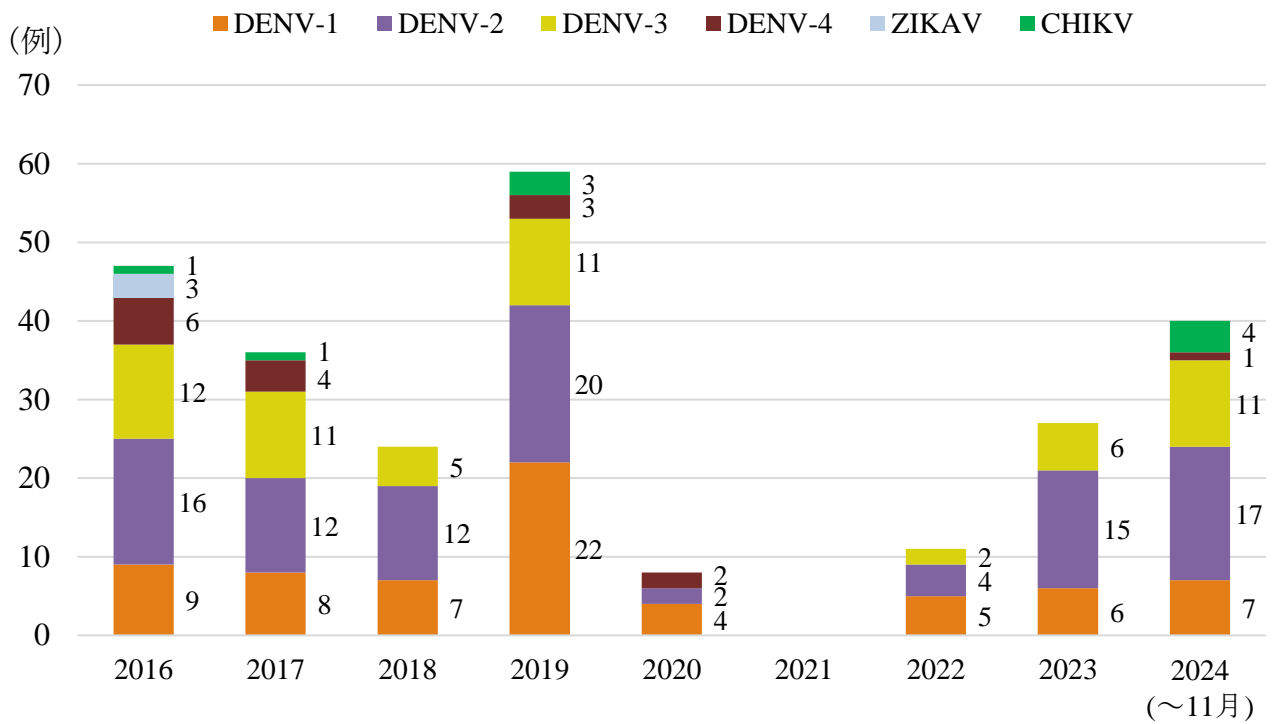


図1 2016年1月～2024年11月のDENV, ZIKAVおよびCHIKV検出数

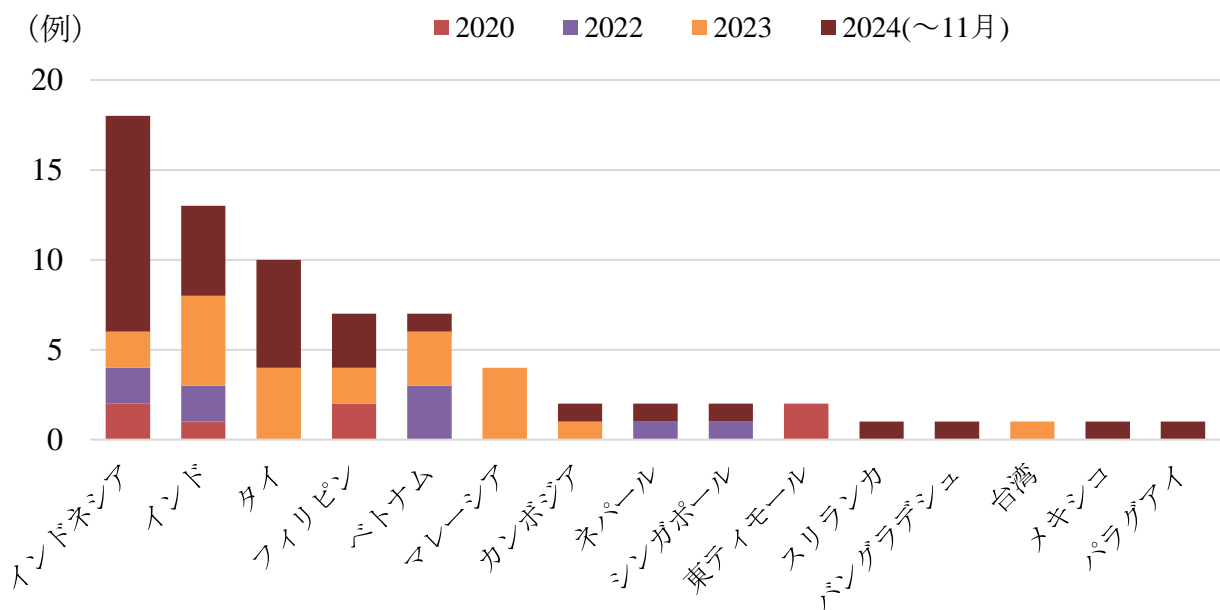


図2 2020年～2024年11月のDENV検出例の推定感染地（単一国渡航のみ）

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)*

2024年12月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス A菌	腸管出血性 大腸菌	結核菌
区	千代田区					1	
	中央区						
	港区					2	
	新宿区						
	文京		1	1	1		
	台東					1	
	墨田区						
	江東区						1
	品川区						
	目黒区						
	大田区					1	1
	世田谷						2
	渋谷区						
	中野区						2
	杉並区					1	
	豊島区						1
	北区					1	
	荒川区						
	板橋区		1				
	練馬区						
足立区					3		
葛飾区							
江戸川						8	
市	町田市						
	八王子市						
小計			2	1	1	10	15
都	西多摩						1
	多摩立川					1	5
	南多摩					1	
	多摩府中					1	5
	多摩小平					1	2
	島しょ					1	
小計						5	13
合計			2	1	1	15	28

東京都健康安全研究 センター分離分						6	
----------------------	--	--	--	--	--	---	--

*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)*

2024年12月分

	検体数	2024年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	5	67
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)		10
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	16	106
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(菌)**	13	101
播種性クリプトコックス症(菌)		18
合計	34	302

*2016年4月(第37巻・第4号)から追加 **2023年5月本庁通知による名称変更

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2024年12月分

	菌種名	検体数	2024年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		1
	組織侵入性		
	病原血清型		
	腸管出血性		3
	その他・不明		
	サルモネラ		
	O4		17
	O7		4
	O8		2
	O9		1
	その他		2
	不明		
	エルシニア・エンテロコリチカ		
	エルシニア・シュードツベルクローシス		
	腸炎ビブリオ		
	その他のビブリオ		
	エロモナス		
	プレジオモナス・シゲロイデス		
	カンピロバクター	12	129
	黄色ブドウ球菌		34
	F型ウエルシュ菌		89
	ボツリヌス菌		
F型ボツリヌス毒素産生性 クロストリジウム・バラティイ			
リステリア・モノサイトゲネス			
セレウス菌		1	
赤痢菌		8	
エシェリキア・アルベルティイ			
プロビデンシア・アルカリファシエンシス			
ウイルス	ノロウイルス(G I)	7	246
	ノロウイルス(G II)	110	902
	ノロウイルス(G I, G II)		33
	ロタウイルス		24
	サポウイルス		
寄生虫	アニサキス	1	27
	クドア		1
合計		130	1524

表4 HIV 検査数及び陽性数

2024年12月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
検査数	103		43		2	1	148	1
2024年累計*	3,416	28	1,120		13	3	4,549	31

* 東京都新宿東口検査・相談室の2024年1月～3月実績を含む

表5 性感染症検査数及び陽性数

2024年12月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
検査数	151	13	218	4	156	
2024年累計*	4,364	401	2,219	94	1,398	5

* 東京都新宿東口検査・相談室の2024年1月～3月実績を含む

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

2024年過去3か月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	10月	11月	12月	合計
小児科	手足口病	エンテロウイルス	1	2		3
	伝染性紅斑	エンテロウイルス	1			1
インフルエンザ	インフルエンザ及びインフルエンザ様疾患 (ILI)	インフルエンザウイルス AH1pdm09	10	30	49	89
		インフルエンザウイルス AH3	1	1	7	9
		インフルエンザウイルス B型 Victoria系統	1		1	2
眼科	流行性角結膜炎	アデノウイルス	1	3		4

◆東京都微生物検査情報◆

2025年1月28日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

東京都感染症情報センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL : 03-3363-3213

FAX : 03-5332-7365

S1153803@section.metro.tokyo.jp

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>

(2023年7月1日よりURLを変更しました)